組織活動を通じて自立と連帯を

兵庫県漁協青壮年部連合会

兵庫県漁協青壮年部連合会設立総会

秋晴れの中、去る10月30日、水産会館において、兵庫県漁協青壮年部連合会設立総会が開催された。同総会において、51年度事業計画および連合会規約が原案どおり可決承認された。なお、ひきつづき行なわれた役員選任において、会長に小南慶三氏（高砂漁協水産研究会）、副会長に前田博氏（福良漁協青年部）、伊藤久一氏（香住水産研究クラブ）が選ばれた。

放て我らの矢を

統一休漁日を目指し

県漁連においては、昭和49年度より漁業振興対策の一環として、若い力の結集と、その組織活動を通じて自立と連帯の精神を学び、明日の漁村の担い手を養成するため県下津々浦々の漁村青壮年グループの地区段階、県段階の組織化に取り組んできた。その結果、昨年3月には淡路地区、今年7月には但馬地区と、各地区漁青連が結成された。それをひきつぎ、このたび、参加数二三六人の、県漁青連（高砂漁協水産研究会）、伊藤久一氏（香住水産研究クラブ）が結成されたことになる。

当日、各青壮年グループはもとより、県知事、県漁連会長、信漁連会長、県婦連会長をはじめ、170名の出席をえて開催された。

設立委員会長より「漁業の振興のため、互いに助け合い、明かるい漁村づくりに邁進しよう。」と開会の挨拶がなされた。

来賓各氏より、「協同組合運動の精神にのりまた漁協の協力組織として、一致団結して、新しい漁村社会を築くため、努力してほしい。」との激励の言葉があり、県青連に課せられた任務が重大であることが再度確認された。

今後の活動としては、漁村の後継者対策、漁協統一休漁日の設定問題等に取り組んでゆくが、51年度事業としては、生産技術の改良や漁業経営の合理化、近代化のための研修会・講習会の開催、沿岸沖合漁業の振興のための先進地視察などが計画されている。

また、役員の選任については、左記のように決定した。

会　長　小南　慶三（高砂漁協水産研究会）
副会長　前田　博（福良漁協青年部）
同　伊藤　久一（香住水産研究クラブ）
理　事　福原　三郎（富島漁村青少年クラブ）
同　大上　理平（生穂漁青クラブ）
同　隅谷　敏（林崎漁協青年部）
同　隅谷　秀夫（姫路市連青年部）
同　大西　巌（柴山港漁協青壮年部）
監　事　新谷　正義（仮屋水産4Hクラブ）
同　原田　正夫（神戸市西部漁協水産研究会）
同　清田　作治（浜坂漁協青壮年部）

第24回漁村青壮年部活動実績発表大会

兵庫県漁協青壮年部連合会の設立総会に引続き、県漁連、県の共催で実績発表大会が開催され、次々に活発な発表がなされ、会場一杯に若い力がみなぎった。

まず研究活動発表として仮屋水産4Hクラブ、伊保漁協水産研究会、浜坂漁協居組地区青壮年部、富島漁村青少年クラブ、家島漁協青年部から種々の課題について熱心な研究の成果が披露されたが、助言者五名によって慎重に審査された結果、仮屋水産4Hクラブの「入札制度の採用による販売方法の改善について」が、全国大会の代表として選ばれた。

この審査の間に、香住町漁協青年部、福良漁協青壮年部より意見発表があり、特に「県漁連の合併とわれわれ」と題して、県漁連の在り方、疑問点についての発表がなされ、これに答えて県漁連山田会長が明解な説明を行なった。

また、中国での感慨も生々しい洋上大学生2名より「青年洋上大学参加報告」があり、なごやかな雰囲気のうちに大会の幕をとじた。

所信を語る

県漁青連　初代会長　小南慶三

漁業の中心である青壮年が、漁の合間に活動することは並大低でない。しかし自分達の力で県青連を結成した今日、県漁連や親組合の援助を得て可能な限り、その使命をはたしたい。

その器でない私がこのたび初代会長に就任したが正直な処、不安と焦燥で一パイだ。しかし引き受けた以上、役員と共に地道であっても絶えることのない活動をしたい。

当面は自分達の活動する時間を生むため「県下漁協統一休漁日」の設定に取組みたい。非常に困難な問題だが、青壮年部員の連帯を図るに必要な運動と思う。県や系統団体の協力をお願いしたい。

系統の完全利用は組合員の義務

"漁業実態に即応した予算確保と施策充実"訴える

系統八団体が強力な陳情展開

合体なった県漁連を中心とする系統八団体は去る十月十三日、同十五・十六日の三日間、当面する漁政問題を主体に、漁業振興に関する予算確保と施策の充実を強く訴えるべく、県内及び中央において活発な陳情活動を展開した。

この一連の陳情行動は、現在系統八団体で構成する漁政懇話会で選択検討されたもので、今日漁業が内外ともに重大時期にあるという認識のもとに、系統組織の一体的連帯のなかで、苦境の打開を図ろうとするもの。

県内陳情は、多年の懸案であった三漁連合併が実現し、名実ともに体制基盤は確立されたが、合併の成果を期するには、県当局の強力な指導と援助を求める要望をはじめ、海上交通と漁業操業の調整、等々十二項目の重点事項を知事ほか関係部局、さらには県議会に対し強力な陳情行動を行なった。

また中央陳情は、現在全国漁業者の切望する油濁被害救済の恒久的制度の早急確立や、昨年十二月一方的に制定された「船主責任制限法」「油濁損害賠償保障法」は漁業者の立場を無視した不当な制限法であることをふまえ、国の責任弁済と法改正を運輸・通産両省に強く迫る一方、魚価安定対策の拡充、ズワイガニ資源調査の予算化、燃油資金、維持安定資金の拡大等々、現在本県のみならず全国的に要請されている十六項目の重要懇案事項をもって、地元選出代議士をはじめ関係各省庁に対し精力的な陳情攻勢を展開した。

県内陳情事項

一、県漁連の育成強化について
分ける重大時期にあるという認識のもとに、系統組織の一体的連帯のなかで、苦境の打開を図ろうとするもの。
県内陳情は、多年の懸案であった三漁連合併が実現し、名実ともに体制基盤は確立されたが、合併の成果を期するには、県当局の強力な指導と援助を求める要望をはじめ、海上交通と漁業操業の調整、等々十二項目の重点事項を知事ほか関係部局、さらには県議会に対し強力な陳情行動を行なった。
また中央陳情は、現在全国漁業者の切望する油濁被害救済の恒久的制度の早急確立や、昨年十二月一方的に制定された「船主責任制限法」「油濁損害賠償保障法」は漁業者の立場を無視した不当な制限法であることをふまえ、国の責任弁済と法改正を運輸・通産両省に強く迫る一方、魚価安定対策の拡充、ズワイガニ資源調査の予算化、燃油資金、維持安定資金の拡大等々、現在本県のみならず全国的に要請されている十六項目の重要懇案事項をもって、地元選出代議士をはじめ関係各省庁に対し精力的な陳情攻勢を展開した。

県内陳情事項

一、県漁連の育成強化について
二、海上交通と漁業操業の調整について
三、漁業近代化資金融資枠の拡大について
四、漁業振興資金融資枠六億円の確保を図られたい
五、赤潮対策の促進と確立について
六、漁業共済制度の普及指導の強化を図られたい
七、漁業信用基金協会に対する出資金の造成について
八、漁船保険加入に伴う県費加入奨励助成措置の凍結解除について
九、香住漁業無線局運営委託費の確保について
十、独立水産高校の設置について
十一、第六次漁港整備計画の実施を契機として県の漁港整備事業を飛躍的に拡大強化して推進されたい（附：昭和五十一年度二月補正予算要望事項）
十二、財団法人兵庫県水産公害対策基金に対する運営資金貸付金を出捐金に切替えられたい

中央陳情事項

一、油濁による漁業被害に関する恒久的救済制度を早期に確立されたい
二、瀬戸内海環境保全法を早期に制定されたい
三、船舶の所有者等の責任の制限に関する法律及び油濁損害賠償保障法に定める漁業被害救済のための制限措置を改め被害の完全なる救済を実施されたい
四、魚価安定対策の拡充強化を図られたい
五、未利用水産物の利用及び魚食普及について組織だった活動を展開されたい
六、栽培漁業振興対策の積極的な推進を図られたい
七、ズワイガニ資源調査研究費の大巾予算化について
八、漁業経営維持安定資金の融資枠六〇〇億円以上を確保されたい
九、漁業用燃油対策特別資金融資の継続実施について
十、漁業経営安定維持資金及び漁業用燃油対策特別資金の保証措置について特段の配慮を願いたい
十一、第一次沿岸漁場整備開発事業の積極的促進を図られたい
十二、赤潮対策の促進と確立について
十三、海上交通安全法の見直しについて海上交通と漁業操業の競合について基本的な対策を明示されたい
十四、漁業共済制度の内容を改善願いたい
十五、漁業共済制度に対する国の援助を強化されたい
十六、第六次漁港整備計画の大巾策定とこれに関連する漁港振興施策について格段の推進を図られたい

燃料報国
一滴の燃料を生かす確かな技術
余裕の出力、曳き力抜群！
●船舶主機用3.0～1800馬力●
●船舶補機用3.5～2900馬力●
ヤンマーディーゼル
船舶主機
3M15R形
〈15PS/1400rpm〉
●詳しいカタログをお送りします（本社・営業部）まで。
ヤンマーディーゼル株式会社
（本社）大阪市北区茶屋町62（〒530）TEL（06）372－1111（代）
（支店）札幌・東京・名古屋・大阪・高松・広島・福岡

拓水
11月号
No. 242
発行所
兵庫県漁業協同組合連合会
兵庫県水産業改良普及協会
〒652
神戸市兵庫区中ノ島2の2
発行人　兵庫県漁業協同組合連合会
会長理事　山田岸松
TEL　681－6954～7
一部　10円

兵庫県漁政懇話会

山口副知事を囲む会

―県漁連の育成強化と水産公害の諸問題について―

県政と我々水産業界とのパイプをより太くし、相互理解を深めるため、当懇話会は七月より発足したが、既報のとおり七月には「小野農林部長を囲む会」九月には「戸谷副知事を囲む会」を夫々開催した。

今回は、県の大番頭である山口副知事を囲み去る一〇月一八日約二時間余りにわたり県漁連の育成強化と当面する水産公害の諸問題について熱心な意見交換や要望を行った。以下その概要をお知らせして皆様の一層の御理解を深めたいと思う。

当日、県側から出席された方々は、山口副知事、小野農林部長（途中より所用のため中座）吉岡食料局長、福井水産課長、伊藤漁場保全室長、青、橋本水産課副課長及び荻野水産課長補佐であった。

県漁連の育成強化について

山田県漁連会長、森全副会長、西上副漁連会長、天野全専務、塩谷県漁連専務ほか

この問題は、前二回の会合でも採り上げ県当局に訴えたが九月に合併した新生県漁連にとっては当面最大の課題であるため、三度この問題について山口副知事に要望し意見の交換を行った。

一、統合漁連の運営指導強化について県の強力な指導助言をえたい。

二、諸施設の整備及び燃油対策、経営安定対策、養殖用餌料対策或は魚価安定施策など多くの経済施策を推進しなければならないが、県・県の制度融資の拡大と優先適用を配慮されたい。

三、後継者育成対策を強力に推進されたい。かねてから県漁連としても後継者育成に努力しており、先般県主催の青年洋上大学に二三名の漁村青年を参加させたのもその一つである。特に去る九月県議会において自民党北村利男議員（城崎郡）の現香住高校の水産課程を県立水産高校に独立させる事についての質問に対する助成、八〇〇万円余りが付随しており県の助成制度五億円（五一年度は二億円）、漁業近代化資金枠三五億円（五一年度は二三・五億円）の確保方強調した。

水産公害の諸問題について

山田県漁連会長、森本公害基金専務、但馬県漁連参事ほか

水産業に及ぼす公害は、一赤潮・水質汚濁・油濁・重金属、海上、海底の浮遊沈積物など多種多様であり、更に近年では内海における一般船舶の航行激増による交通公害も発生しており、広汎多岐に及んでいる。

一、赤潮対策のうち特に漁場に沈積したヘドロの処理を促進されたい。昭和四八年以降ヘドロ回収技術事業化試験について本県は積極的に取組まれ意欲を示されているが明年度はこの事業が制定される以前に県においても積極的に留意されてしかるべき手を打つよう配慮されたい。

（答）私自身県庁内では赤潮対策本部長となっており近く対策会議も開くこととしているので逐次施策をすすめたいと又ヘドロ回収については県のやる範囲内で実施したい。海上交通の問題について戸谷副知事とも度々協議したいと考えている。又、被害の実態をよく把握して海上所管部署にも県として申し入れるようにしたい。（山口副知事）

先般来海上交通による被害実態の調査をすすめている。港湾課や、運輸省第三港湾建設局（神戸）とも連絡をとり関係機関が資料を持寄り内部的にツメを行うこととしている。又当方より海難防止研究会や水先案内人組合等には漁業操業の実態についてよく説明をした部分もあったが特に山口副知事が水産行政機構、内容を充実する方向で検討中であるむね示唆されたのは注目に価するものであった。今回も司会は、公害対策基金の森本専務が行った。

漁業側の出席者は次のとおりであった。

県　漁　連　山田会長
　　森副会長
　　塩谷専務
　　但　参事
　　戸田漁政課長
信　漁　連　西上会長
　　天野専務
共済組合　岸　専務
基金協会　藤原参事
内海保険　浅井専務
但馬保険　小林専務
公害対策基金　森本専務
　　本間事務局長
漁港協会　森　会長
　　横尾事務局長

水産行政の機構充実

但馬地区漁協青壮年部連合会設立総会開催

但馬地区においては昭和二十八年五月但馬漁村青少年クラブ連合会という名称で各単協漁村青少年クラブ（当時九団体）の連合組織として発足した。その後各単位青少年クラブは技術経営改善についての研究調査の進捗に伴い名称を「水産研究クラブ連合会」と改称して今日に至っている。その間における業績は、毎年一回研究発表大会を開催すると共に、三十年五月より漁況情報交換事業を開始して現在に至っている。またするめいかの共同研究を行いその結果はどしどし漁業の実際に採り入れ漁業生産に直接役立たせると共に今日の但馬のいかつり漁業の興隆に大いに貢献していることは事実であり、更に毎年の研究発表による活動についても全国大会にても発表されこれに入賞することも数次におよび、兵庫県知事よりも優秀グループとして三十一年に、三十四年にもするめいか共同研究に対し県漁連会長より奨励金の交付を受ける等輝かしい伝統を確立した。しかし漁業情勢の変化により四、五年来は特に活動が停滞し往年の動きが見られず現在に至っておるものであるが、この間にも農林事務所の肝入りで活動再開等に関して会合を二、三回持ったものの現在では沖合いかつり漁業、底曳網漁業で周年操業となり沿岸漁業も殆ど老令者のみとなれば従事して青壮年は前者に従事のため研究活動のいとまがなくなってしまったと言うのが現状であってなかなか組織作りが困難で実行が伴わない状況で今日に至ったものであるが県漁連の合併実現により系統団体の強力な推進力として再発足することが再確認され、ともかく組織を発足させ会員が一致協力して徐々にでも趣旨に賛同する者を入会させることとしともかくも一五〇名前後の会員数を以って去る九月十七日設立総会開催に至ったものである。

設立委員代表伊藤久一氏より設立に至るまでの経過報告を行い、議事に入り規約の制定、事業計画、予算案の承認、役員の選任を行い無事連合会が誕生した。事業年度を一月一日一二月としたが本年度は取り敢えず十一月中に漁業先進地視察を実施することとしまた各単協組合長との漁青連役員合同懇談会等の開催を計画し研究発表大会は新年度に持ち越した。選任された役員次のとおり。

会長伊藤久一（香住）副会長大西敏（柴山）理事浜本晋一（津居山）清田作治（浜坂）鶴田勲（諸寄）監事与田栄次（竹野）森謙信（居組）

漁民の合意得る提言を

積極的政策展開で意見一致

境港で西日本水産振興会議

昭和五十一年西日本水産振興会議が去る十一月五日午後一時より鳥取県境港市市民会館で開催され、二府二十二県の県及び漁連関係者五百名が出席し、当面する水産諸問題について熱心な討議が行なわれた。

会議には主催者側として亀長友義大日本水産会長、林原鳥取県知事、林原鳥取県漁連会長らが出席中央団体から及川孝平全漁連会長はじめ日鰹連、全底連等十四団体代表、来賓側として林田悠紀夫自民党政調委員、佐々木輝夫水産庁次長等が出席した。又、会議に提案採択された事項は油濁被害救済制度の即時立法化、ポスト海洋法対応、領海二、海里と領海侵犯取締り問題等々沿岸漁業から国際規制問題まで十四項目にわたっており、この内本会に関する基本方針の早期策定と推進体制の確立」として栽培漁業推進の基本的方針と全国規模推進体制の確立について政府の見解を求めた。これに対し政府側を代表して佐々木水産庁次長が「沿岸をからめて考えたい。栽培漁業は当初から技術普及機関か教育主体のもの等論議され、技術開発先行で今日に至った。施設は当然国でテコ入れとなる為、魚種の開発がここまで進み、受益者が広範になってくると国だけがと考えられ、地方自治体との関連づけも出てきた。この点について各県と充分協議し対応する。又、全国推進体制についても今後力強く推進する」旨答弁がなされた。更に「ズワイガニの繁殖保護」について兵庫県機船底曳網協会西上会長からも提案され、資源減少の目立つズワイガニ対策樹立にかかる生態試験調査実施を訴えた。

【写真】栽培漁業に対する政府見解を求める森県漁連副会長

【写真】ズワイガニの繁殖保護対策を訴える西上重弘県機船底曳網協会長

このあと提案された十四項について、次回開催県の三重県漁連宮原会長が、各々の問題提議に関し、解決の為の積極的政策展開の必要性につき関係四者の意見一致をみた。又地方・中央の相互理解と連帯に効果を得た。今後この成果の全国的展開と理解の浸透に努める」と会議の集約を行ない閉会した。

演壇

魚礁その四

なぜ魚が集まるか Ⅲ

水試　堺

餌料生物　魚礁を設置すると、季節により差はあるが、およそ半年ぐらいで各種の生物が付着しはじめ、一年後には魚の餌料となる生物が多量に繁殖する。主な生物をあげると、魚礁の面にフジツボが付着し、そのすき間にゴカイ類が巣を造って住みつく。また小型のカニ類や小型のエビ類が、魚礁の極く狭いすき間を住み家として多量に繁殖する。浅い海に設置した魚礁にはさらに海藻が生え、海藻にはヨコエビ類やワレカラ類が付着して繁殖する。その他小型の貝類も繁殖する。これらの生物は、いづれも磯魚と呼ばれる多くの種類の魚にとって、大好物の餌料生物である。

筆者は、魚礁で漁獲したメバル・カサゴ・アイナメなど約七〇〇尾の胃袋を解剖し、彼等が何を食べているかを調べてみた。胃袋からは、いろんな生物が出てきたが、主なものは別表のとおりで、この表でもゴカイ・カニ類など前述の魚礁に付着する生物が磯魚の重要な餌料となっていることが裏付けられた。

つまり、魚礁とは、磯魚にとっては、三食付高級無料マンションなのである。

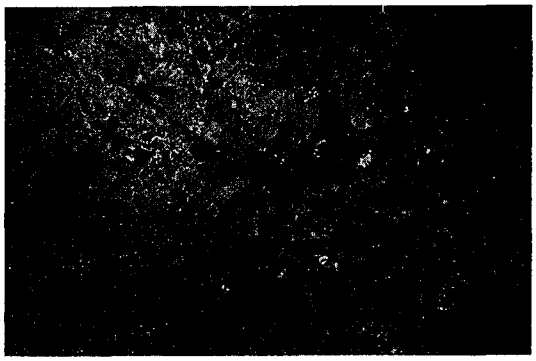
えさ場　魚礁には、魚礁自身に付着して繁殖する生物を主食とする磯魚の他に、魚礁に集まった各種の小型の魚などを狙って集まる魚も多い。このタイプの魚種は、一般には余り永い時間同一魚礁に滞在しないで、磯から磯へと渡り歩くものが多い。つまり住所不定で、魚礁を食堂として利用しているのである。

では、どのくらい魚礁で足を停めているのだろう。この問題は、正確に調査する方法が無いので良くは判らないが、潜水調査や魚群探知器による調査、さらに魚礁での漁船の操業状況などから考えると、ハマチやサバなどは数分と短く、アジやコノシロなどはやや永く数時間滞在するようであり、イサキやスズキなどはさらに永く、一潮、つまり5～6時間単位で移動しているように思われる。

産卵　魚の産卵生態には、大きく分けて二つのタイプがある。アジやイワシのように群をつくる魚は、産卵の時には一斉に産卵放精が行なわれ、群単位で産卵活動をする。それに対し、底生性の魚には、雌雄が一対一で産卵、もしくは交尾する魚種がかなりあるオハグロベラやウミタナゴなども見るし、メバルやカサゴなどは交尾期が近づくと、魚礁に住んでいる数が普段よりもやや多くなるなど、産卵期には配偶者を求めて、ディトの場として魚礁に集まるものがかなりある。

主な胃の内容物（捕食率%）

餌生物	メバル	カサゴ	アイナメ
ゴカイ類	38	1	5
カニ類	7	55	53
エビ類	14	16	20
アミ類	12		
ヨコエビ類	36		13
ワレカラ類	13	5	30
貝類		2	9
ゼ類		5	10
ハギ		7	2
メハゼ			
その他の小魚	4	12	14
海藻		1	20



付着生物（フトヤギ）に産みつけられたアイナメの卵・親（雄）が卵塊に寄りそって見張っていたが写真撮影のため近づきすぎたので逃げていた

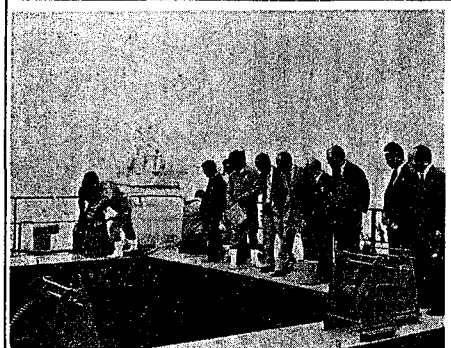
マダイ十万尾放流

明石海峡

去る十月十八日正午、明石海峡岩屋沖でマダイの稚魚（約十センチメートル）十万尾が放流された。

これは、水産庁瀬戸内海漁業調整事務局の御指導により、瀬戸内海栽培漁業協会が兵庫県水産課及び兵庫県漁連の御支援をえて実施したものであり、特に、従来の儀式としての意味合いの濃い放流から、今後のマダイの栽培漁業化のための本格的放流を目ざしておこなわれたものであるだけに、その意義は大きいといえよう。そしてそのことを実際の場で視察された水産庁長官、開発普及課長、瀬戸内海漁業調整事務局長、並びに兵庫県副知事、水産課長、県漁連会長等の見守る中で明石海峡の潮流が西流に転ずる時を見図って、ナーサリーバージの底が開放された。このナーサリーバージ（育苗船）は長さ二十五メートル、深さ四メートルの箱型船でありマダイの種苗を育成しながら放流地点まで曳航し放流する目的で、昭和四十九年に開発されたものであり、今回が処女航海でもあったのである。この他技術的な面での特徴をあげれば、県下の中で明石海峡の潮流が最も速いと無駄なことをやるものだとの見方もあるでしょう。そこで、マダイの生態上の特性と、これを漁獲する漁業上の特性から考えて見ると、案外この無駄と思えることは、吾々放流する側と、それを漁獲する漁業者側との本当の協力と連けい次第である。

然し、考えて見れば、ずい分と無駄なことをやるものだとの見方もあるでしょう。そこで、マダイの生態上の特性と、これを漁獲する漁業上の特性から考えて見ると、案外この無駄と思えることは、吾々放流する側と、それを漁獲する漁業者側との本当の協力と連けい次第である。



放流魚を見守る出席者

昭和五十一年度「保護水面」の投石おわる

県は水産資源保護法にもとづく保護水面を昭和四十一年度には西淡町湊沖、昭和四十六年度には南淡町沸沖に設置し、以来毎年計画に沿って投石を続けてきた。

本年度の投石は去る十月二十六日湊沖、二十八日灘沖に、それぞれ約五〇〇㎥の投石を実施した。

御承知のように「保護水面」の区域は全面禁漁区とし一切の水産動植物の採捕が禁止され資源保護と増殖に万全を期している。

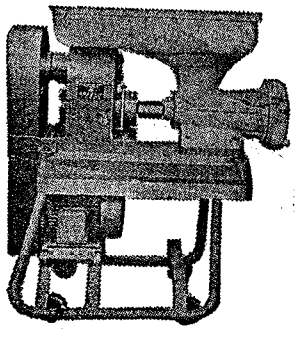
水試では定期的にこの水面における魚類の生息状況等を潜水等により調査を行っている。

同水試でこの調査を担当している堺主任研究員の話によると「両海面とも投石魚礁効果が著しく季節により集り育つ魚介藻類は異るがチヌ、メジナ、メバル、アイナメ等磯魚の恰好の成育場所となりこれらが群泳する光景がしばしば見られその効果は極めて大きい」といっている。

県では今後とも投石をつづけ、魚貝藻類の繁殖には余力をあげていきたいと張りきっている。

魚礁用に投入される投石群（灘沖にて）

養魚の調餌と造粒は
コウベヒラガのミートチヨッパーで

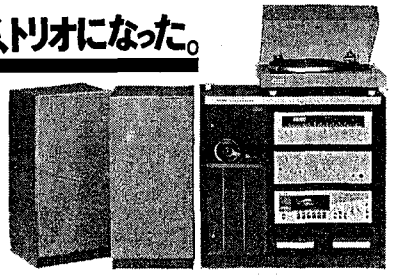


養魚用ミートチヨッパーNo.32からNo.72まで各種製作しています。
又最近の人工餌料需要の増加にともない生魚と人工餌料をよく練り合せ造粒装置付チヨッパーで給餌することもできます。

（御一報次第カタログ贈呈いたします）

ミートチヨッパーとプレート，ナイフの専門工場
株式会社 平賀工作所　神戸市長田区水笠通5番5号　TEL 代表神戸(078)621-1527

TRIO
音の専門メーカー トリオ
硬派のコンポが、トリオになった。



新製品
SYSTEM K7 MKII
組合せ価格…¥119,800
（ラック、デッキ、ヘッドホーンは別売）
★兄弟機システムK5MKII、システムK7MKIIもよろしく
システムKライン

兵庫県内海漁業協同組合連合会 資材・共販一課☎078-552-3424(代表)　トリオ商事株式会社●神戸営業所(〒650)神戸市生田区元町通6丁目3番1号☎078-371-1251

合成洗剤追放運動
関連調査行われる
＝神戸農業改良普及所＝

有害合成洗剤の追放運動は、昭和49年より漁協婦人部等の消費者団体を中心に行なわれているが、この程、神戸市農業改良普及所では、神戸市西部漁協婦人部57名（会長、来田てる子）を対象にその実態調査を行ない「公害問題で粉石けんが奨励されているが、実際にはあまり使われていない」そこで、原因はどこにあるかを追求している。

その結果、4人中3人が合成洗剤を使い、79%の人が基準量以上を使用している。また、粉石ケンでは泡が出ないためか、従来の合成洗剤に変えている傾向があるという結果をえ、今後の対策を協議している。

なお、調査結果は次のとうりとなっている。

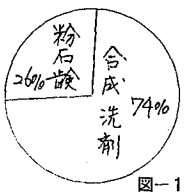
調査結果

（衣料用洗剤）

1、衣料用にどんな洗剤を使用しているか。

自然環境を守り、公害を防ぐには、合成洗剤の使用をやめ、粉石けんを使わなければならないことが分かっているのに、実際には4人に1人しか使っていない。（図－1）

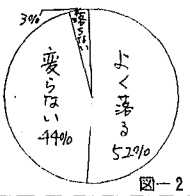
粉石けんの衣料用洗剤としての効果は、むしろ合成洗剤よりも勝れていることは次に述べるとおりであるのに、その使用率が低い原因は(1)手軽に手に入らない、(2)泡が出ないため、何かたよりない感じがする。というのが一般的な理由のようである。



図－1

2、よごれの落ち方

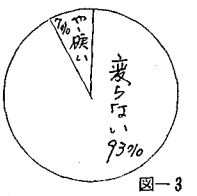
合成洗剤と比較すると粉石けんの方がよく落ちると答えた人が多い。（図－2）



図－2

3、洗い上り

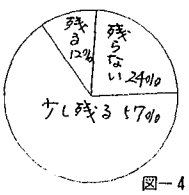
合成洗剤と比較しても粉石けんの洗い上りは、余り変らない。（図－3）



図－3

4、黄ばみ、黒ずみ

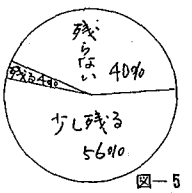
合成洗剤（図－4）と粉石けん（図－5）の黄ばみ、黒ずみを比較しても「残らない」とはっきり答えた人は、粉石けんを使用している人に多い



図－4

（台所用洗剤）

結果として一度石けんを使用した人でもまた合成洗剤に変えた人が多い。その理由は臭いが残る、あるいは汚れが落ちない等が上げられている。（図－6）



図－5

図－6

地域ぐるみで粉石ケンを使えるよう話し合いましょう

漁協一代（その一）

作　花　英　治

（はじめに）

昭和五十一年九月一日、だ。そこで私は九月三十日に予定せられた新漁連発足視賀会を目途として十七年十二ケ月に及んだ但馬漁連の残務を完了することにして、九月一日以降は時に在庫の但馬漁連は、八月三日に解散、私はこのときに但馬漁連を退職、同時に四十三年八ケ月の漁業協同組合役職員生活に終止符を打つことにした。思えば長い漁協生活であった。折も折私は九月一日六十五才の誕生日をむかえたのである。偶然の符合であろうが、それにしても私にとって漁協生活の終幕が誕生日の前日であるとは奇しきめぐり合せで、信仰心の無い私であっても何か目に見えない超自然の力が働いているよう思えてならない。仏教で謂う因縁というものかも知れない。

ともかく私は退職したることになったので、私のる種類のものである。故に至ってのんびりと気まかせ、心まかせにこれに当ったが、しかしいくらスローテンポでも後に仕事を残さていないということはありがたいものである。九月三十四日に

自宅に在って、時には「県政閑俎」の整理である。謂うなれば但馬漁連の過去の記録として、後年仮に但馬漁連の漁業史或は組合史が編纂される上したらその参考資料となり、県漁連但馬支所として処理担当が予想せられる事項の参考に供せられるよう整理しておくことにした。

整理は一切を完了した。机及び大小の書類保管庫六ケを完全に空にし、この旨松井支所長に報告し、数ケの私物梱包を漁連の好意で軽四輪に積み込み、事務所の一同に見送られ、事務所の一同限り「山鳥の尾のしだり尾の長々しき」文章を続ける工夫

と忠告されたが、

さて私の漁協役職員生活は、冒頭に述べたように柴由漁協三十五年、但馬漁連十八年、通算四十三年に及んだ。私の青年期壮年期をうして老年期の一部にわたるこの生活を何かの形で記録に残しておくことは、柴とりするが、私の記述が今から十五年前の昭和三十七年から三十八年まで十四県北漁業地帯の発展過程を物語る一つの資料となるものではないかと考えていた日記と雖も大小の推敲を筆の依頼があった。創作ということはむづかしいが、体験や経験等自分のことをもあらず、かってこれを読まれた方々は時にその重複したいことである。退職後既の出てくることをおゆるしいのである。自叙伝ふうに私漁協生活を書いてみることにした。拓水が廃刊になるか、私が挫折するかしないから「仕事から離れると急に老化するぞ。呆けないよう工夫しろ」と忠告されたが、

決心でペンを執る次第。但馬漁業の側面史という程勿体はつけない。軽い気持ってみることにした。字を書く、文章を作ることは一程度に読んでいただければ幸いである。なお一つおこ誤字を書いたり、文意を誤らないために辞書を引く。文法上の間違いなきを期するため文法教科書を調べるなど他人に見せるものでな日記と雖も大小の推敲を凝らすことは勉強になる。ましてや拓水への投稿は大いに私の老化防止に役立つ

ろしく、まことに恥せであるが、私は私なりに老化防止の方法として、毎朝机に向まれたことを感謝している次第である。只遺憾ながら私は既に過去の人間であるから将来性、進歩性を求める年度末をもって国庫補助対象は打ち切りとなった。その後、全漁連においては、会員からの要望もあり、昭和51年度は、各地区ブロックとの共催ということで、自主的に本研修事業の継続実施をとり決めた。

漁業経営の近代化および事務能率の向上等を促進し、漁協事業の総合的推進をはかるため、漁協役職員を対象とする研修事業を行なうことにより、漁協経営の健全なる発展を期す、我が国水産業の振興

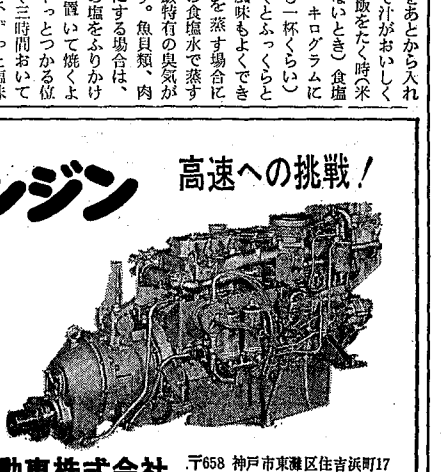
十一月の旬のもの

洲本農業改良普及所

松並ひろ子

物価高になりましたネ、「ものいえばくちびる寒し秋の風」どなたの句かわかりますか？どうも肌寒しといったより、ふところ寒しといった毎日です。ぜいたくな材料は使えません。上手な買い物技術が必要です。それにはまず、季節の旬のものをとり入れてゆくことです。前にものべましたが、美味しいものはなんといっても旬のものです。安くて新鮮なものが手にはいりやすいのです。特に秋は、十月に出始めたものが十一月に豊富に出盛り、安くておいしくなる時季です。野菜類は、みずみずしく新鮮な白菜、大根、ふかぶ、ほうれん草、小松菜、春菊、ねぎなどが沢山出回ってきます。これらの野菜をいろいろに料理して、たっぷりいただきましょう。さつま芋をはじめ、里芋、山芋も豊富でおいしい時季です。

・二～〇・三%の割合で食塩を先に入れ、それだけ減らしたみそをあとから入れますと、みそ汁がおいしくできます。御飯をたく時（米のおいしくないとき）食塩を小量（米一キログラムに対して小さじ一杯くらい）を入れてたくとふっくらと甚もふえ、風味もよくできます。御飯を蒸す場合にも、約一%の食塩水で蒸すと、蒸しご飯特有の臭気がなくなります。魚貝類、肉類を塩焼きにする場合は、一度に多量の塩をふりかけて、短時間置いて焼くより、材料がやっとつかる位の塩水に二～三時間おいてから、焼くと、ずっと塩味のよいものができます。卵をゆでる時、食塩水でゆでてから冷水につけると、皮がむきやすくなり、ヒビのはいった卵でも流れ出ません。その他、野菜を多く食べる人は、適当量の塩分を摂取する必要があります。これは野菜に含まれているカリウムがナトリウムを追い出すため、食塩の補給が必要となるわけです。しかし漁家は野菜不足が自立っております。充分摂取して下さい。食塩のとりすぎは、高血圧にきんもつです。

食品がいど

料理と塩について一口メモ　料理に甘味をきかすには、必ず砂糖を先に入れてよく浸透させ、あとから少量（砂糖の〇・五～〇・七%）の食塩を入れると甘味が引き立ちます。お吸い物は塩だけでだいたいの味つけをし、しょうゆは好みに応じてあとからごく小量を加えます。そのほかのつゆ物や煮物の場合でも、しょうゆだけを使用せず、食塩八しょうゆ二の割合で調理しますと淡泊でおいしく経済的です。みそ汁なども、〇